

カラオケ会

| | |
|------|---------|
| 代表者名 | 阿部 善幸 |
| 発足月日 | 1996年7月 |

「カラオケ会」は、1996年（平8）7月、歌好きの鈴木英夫支部長（当時）の肝いりで発足。1998年（平10）4月以降、2か月に一度、毎偶数月開催の懇話会終了後からの実施が定着。初代の世話役は永沢清氏、以後ほぼ歴代の親睦担当幹事が担当。初めの頃は場所確保が大変でした。土曜日のため、カラオケ店はいつも混んでおり、待ち時間が1～2時間と長いうえに料金も高かったからです。

そこで見かねた杉本矩雄氏が一肌脱ぎ、現在まで続く店、「カラオケ暖家（だんげ）」を確保してくれました。杉本氏は当時、近くのマルチビジネス専門学校に勤務しており、先生方や学生達と時々利用していたので、マスターに強力にかけあって、飲み物・食べ物持込自由、歌い放題でしかも学割料金（?!）にしてもらったのです。

いつもオープニングは「憧れのハワイ航路」、締めは「加藤隼戦闘隊」（2018年より「高原列車はゆく」となる）を、会歌として全員で声高らかに合唱。毎回10～15名程参加し、カラオケは勿論、会員同士のふれあい、語らいの場としてもかなり賑わっています。

一方、「愛唱会」は2007年（平19）11月よりスタート。この会は、懐メロをこよなく愛し、歌そのものを深く味わい楽しみたいというメンバーが、全体会とは別にプライベート的に立ち上げたもの。初回は伊勢博、山本治郎、奥山昇、伊東功夫氏の4名でした。後に槻山智雄、若生勝芳、江刺俊光、高橋翁、田島正義氏等々が加入。

毎奇数月上旬、平日13時より3時間、仙台駅前カラオケ館で、最小2名から7名程で、一人5曲から10曲前後を熱唱（新曲も可です）。世話役は伊東功夫氏が約10年担い、2018年（平30）から阿部善幸が引き継いでいます。

「カラオケ会（全体会）」、「愛唱会」共、現役時代お互いに苦楽を共にした仲間と、退職後も気兼ねなく、親しく付き合い、安く楽しめ、ストレス発散に健康増進にと多いに役立っております。（阿部記）



2012年12月8日 カラオケ会 鈴木英夫氏を囲んで



2019年9月10日 愛唱会